

第1章 平成18年度の研究について

高本 洋 西多 由貴江

1. 研究テーマ

幼児期の「学び」を探る

～4つの側面を通して～

2. テーマ設定の理由

昨年度、私達は「幼児期の『学び』を探る」というテーマを掲げ、研究を進めてきた。その際、サブテーマ「からだで感じるということ」を設け、幼児らが“からだで感じている”と思われる場面の事例を持ち寄った。そして、事例における幼児の「学び」について検証してきた。その結果、

- ・幼児期の「学び」を保障するために直接体験することは大切であること
- ・教師や友達とかがかわることが幼児一人一人の直接体験を支えていること
- ・自然とかがかわることの中に「学び」のチャンスがたくさん含まれていること

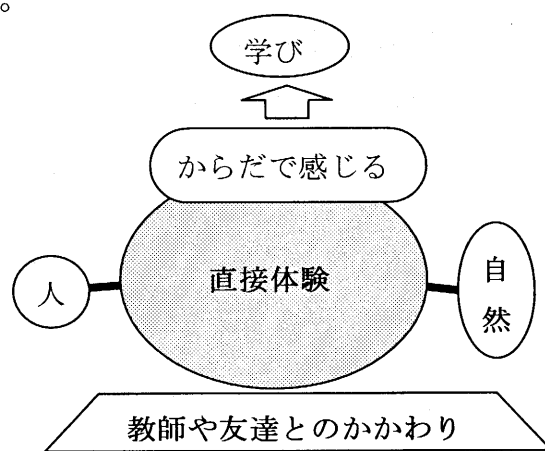
の3つのことが見えてきた（紀要第51集 p97、98）。

この3点は決して並列ではなく、右図のように、それぞれががかわりあっているものであった。

また、昨年度の研究報告に向けての話し合いの中で、直接体験をしているからといって「学ぶ」ことができているわけではなく、「直接体験を通して、からだで感じてこそ、『学び』につながっている」ということを共通理解した。

このように、昨年度の研究を通して、「学び」を支える周辺的なことが明らかになってきた。

しかし、「学び」の内容については、はっきりしなかった。そこで、今年度は、幼児らが遊びの中で何を学んでいるのかを探りたいと考え、上記のテーマを継続することにした。



3. サブテーマについて

幼児らが遊びの中で何を学んでいるのかをはっきりさせるために、事例における幼児らの「直接体験」を洗い出し、その直接体験を通して幼児らが「感じたこと」及び「学んだこと」を読み取っていくことにした（＝「学び」の様相）。その時に、事例から読み取った「学んだこと」をいくつかの側面から見て分析することが大切なのではないかと考えた。

昨年度、「からだで感じる」という切り口で事例を収集してきた際に、“からだで感じる”中

には、「直接皮膚を通して感じる部分」と「心の中で感じる部分」の大きな2つの視点があることが見えてきた。

そこで、その2つの視点をもとに、まず、皮膚感覚を通して学んでいること（身体的側面）と、心の中の思いを通して学んでいること（心的側面）があるのではないかと考えた。そして、改めて昨年度の事例を分析したところ、からだで感じて学んでいることの中には4つの側面があるのではないかと考えた。

- ①身体的側面 …… 動きや身体感覚
- ②知的側面 …… ものの性質や使い方
- ③心的側面 …… 心の中の思い
- ④社会的側面 …… 友達と一緒に遊ぶ中で身につけた社会性

今年度は、この4つの側面を通して、「学び」をより深く探っていくことにした。

4. 研究の目的

- ・ 幼児らが遊びの中で何を学んでいるのかを、4つの側面を通して明らかにする。
- ・ 遊びの中の「学び」を支える教師の具体的な援助のあり方を探る。

5. 研究の方法

- (1) 幼児らが学んでいると思われる遊びの場面の事例を収集する。
- (2) 事例から見て取れる幼児らの「直接体験」を洗い出し、その直接体験を通して幼児らが「感じたこと」及び「学んだこと」を読み取っていく。(=「学びの様相」)
- (3) 「学びの様相」における教師の援助を洗い出す。そのときに、「直接体験につながる教師の援助」と「感じたり学んだりすることにつながる教師の援助」に分けて位置づけていく。
- (4) 「学んだこと」を、①身体的側面、②知的側面、③心的側面、④社会的側面の4つの側面に分類する。
- (5) すべての事例を通して、4つの側面それぞれから見えてきたこと、及び教師の援助について考察する。